

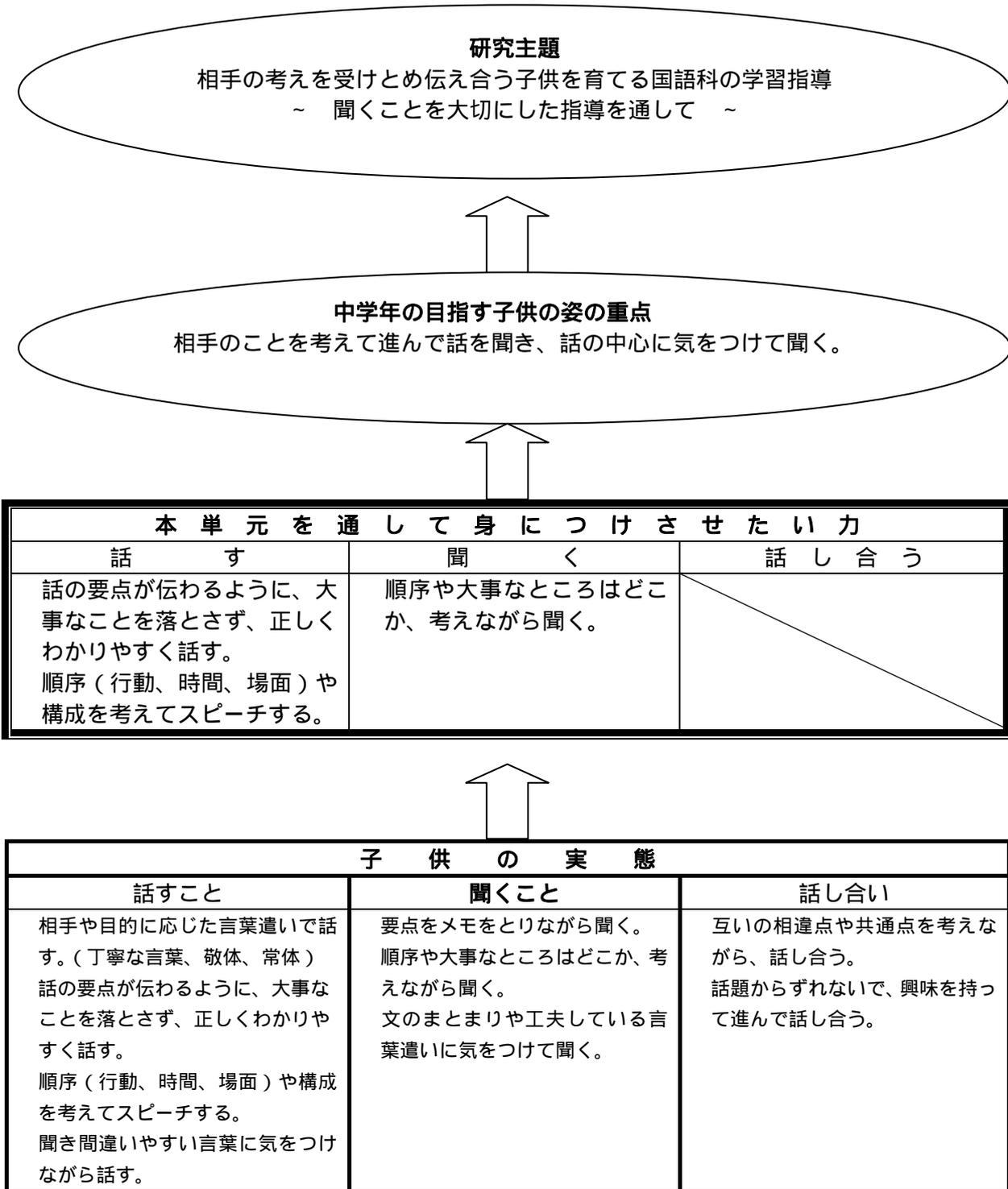
# 第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年11月2日(火) 5校時  
 児 童 男17名 女3名 計20名  
 指導者 山 内 明

## 1 教材名 道あん内をしよう

## 2 単元について

### (1) 子供の実態と研究主題との関連



(2) 単元について

児童について

これまでの学習で、発表の仕方の手順については身につけてきている。しかし、その場の思いつきによって話の中心がずれてしまったり、最後までしっかり聞こうという意識が低かったりして、聞く側に思うように内容が伝わらない場面も多く見られる。さらに、その内容が相手にしっかり伝わっているかどうか気に配ったり、これまで身につけた語彙の中から言い換えをしてわかりやすく伝えたりという活動も経験が乏しい。

確かめながら話す・聞く活動の機会が少ないことから、順序や構成を頭の中で整理し大事なことを最後まで落とさないように話すことは難しい。

聞くことについて

よく分からなかったところを質問することは、日常の学習活動の中で頻繁に見られる。これは、聞く時のポイントがある程度押さえられている、と考えることもできるが、話すときにはポイントが踏まえられていない、とも考えられる。

本教材では、相手を意識しながら話す・聞くという活動をする。聞き手の反応を予想しながら話をするという活動は、毎朝の日直のスピーチによって繰り返し行っているが、お互いを知り尽くしたクラスメイトを相手にした活動であり、異年齢・初対面の相手を想定した活動はほとんど経験がない。

教材について

本教材の構成は、例として挙げられた道案内を聞きながらその問題点を見つける

活動、さらに自分たちで道案内をする活動の二つの活動に分けられる。

一つ目の活動では、目的地にたどり着けなかった原因について、話す側、聞く側のそれぞれの立場から考える。このとき、話すとき、聞くときの大切なことをしっかりと確認する。

二つ目の活動では、先の活動を基礎として、自分たちの近隣の場所などについての道案内をする。先に確認した大切なことはもちろん、相手に応じた話し方や、間違いやすい言葉の言い換えの工夫などについても身につけられるものとなっている。

このように、本教材は「話の要点が伝わるように、大事なことを落とさず、正しくわかりやすく話す。」「順序(行動、時間、場面)や構成を考えてスピーチする。」「順序や大事なところはどこか、考えながら聞く。」を身につけるのに適したものとなっている。

**順序や大事なところはどこか、考えながら聞く。**

指導にあたって  
本教材では、相手に正しく内容を伝えることの難しさや大切さをまず認識させたい。

導入の段階で、問題意識をしっかりとらせることで、学習の意欲につなげていきたい。

また、相手に知りたいことを正しく伝えるためには、まずその相手の内面を理解しようという姿勢を持つことや語彙を増やすことが必要である。これは日々生活していく中で日常的に必要な技能である。

自分より小さな子どもや、大人を相手に道案内をするという具体的な活動することにより、話すとき・聞くときにはどんな配慮が必要なのかを考えさせたい。

自分と年齢や立場の違う人を想定して聞くことは非常に高度な学習活動となるが、ぜひ身につけさせて今後の様々な活動に活用していけるようにしたい。

### 3 単元の目標と評価規準

	目標	主目標 副目標 評価規準 ( B )
関・意・態	いろいろな相手を選んで、道案内ゲームを楽しもうとする。	いろいろな相手を選んで、道案内ゲームを楽しもうとしている。
聞話くすことと	道案内で大事なことを選び、相手にわかるように順序を考えながら話すことができる。(ア) 大事なことに気をつけて聞くことができる。(イ)	年下や年上の相手に応じて、大事なことを落とさないように言い換えなどをしながら道案内している。 正しく目的地にたどり着けるように注意深く聞いている。
言語事項	大事なことが、正確に伝わる話し方が、練習によってできる。(ア(ア)) 相手に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。(カ(ア)) 発音が似ていて紛らわし語句があることを知り、語句を増やすことができる。(エ(ア))	大事なことが、正確に伝わる話し方をしている。 相手に応じた適切な言葉遣いで話している。  発音が似ていて紛らわし語句があることを知り、語句を増やしている。

### 4 学習指導計画 ( 5 時間 : 話・聞 5 )

過程	時	学 習 活 動	指導上の留意点	具体的評価規準 ( B ) と 評価方法
つかむ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     順序が分かるように話したり聞いたりして、道案内のゲームを楽しむ。                 </div> 道案内の経験について話し合い学習の方向を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでに道案内をしてうまくいかなかったことや難しいと思ったことなどを話し合い、「道を知らない人に、順序が分かるように道案内をしよう」という意識を高めるようにさせる。</li> <li>・ 友達どうして聞き合ったり、CDの中の「森さん」の言い直した道案内を聞いたりして、気づいたことを話し合い、道案内で大切なことをまとめるようにさせる。</li> </ul>	目印や方向、順序などの大切な事に気をつけて聞いている。(話・聞) [発表の様子を観察]
		目的地までたどり着けるように隣の友達どうして道案内をし合い、CDの道案内と比べ、どのように道案内をすればよかったかについて話し合う。		

追 求 す る	2	<div data-bbox="300 152 703 232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いろいろな相手への道案内を考えよう。</div> <p>CDを聞いて、二年生の女の子に分かるように、図書館までの道案内をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDを聞いて、隣どうしで、地図を見ながら、のりこさんの役と、道を聞く女の子役になって道案内の練習をする。女の子役になった時は分からないところを聞き返すようにさせる。</li> </ul>	<p>分からないことや聞き逃したところを聞き返している。(話・聞)[発表の様子の観察]</p>
	3	<div data-bbox="300 539 703 620" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じょうずな道案内の練習をしよう。</div> <p>CDを聞いて、消防署のあたりで、なの花小学校までの道を聞いた大人に分かるように道案内をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P44「道案内で大切なこと」を確認して道案内をする。聞く人は地図を見ながら聞き、気づいたことを話し合うようにする。案内役を交代しながら練習するようにさせる。</li> </ul>	<p>正しく目的地にたどり着けるように注意深く道案内している。(話・聞)[発表の様子の観察]</p>
4 本 時	4	<div data-bbox="300 965 703 1046" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大切なことを落とさないように、道案内ゲームをしよう。</div> <p>教科書の地図を使って道案内するところを決め、道案内の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P43の地図を使って、案内する場所を決め、道案内の練習をする。その際、相手によって説明の仕方を変えたり、相手が分かったかどうかを確かめながら話したりするようにする。</li> </ul>	<p>年下や年上の相手を意識した言葉遣いで、大切なことを落とさず、順序を考えて道案内している。(話・聞)[発表の様子の観察・ワークシートの分析]</p>
ま と め る	5	<div data-bbox="300 1467 703 1547" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">話したり聞いたりするときに大切なことを考えよう。</div> <p>実際に友達どうしで教科書P45の間違えやすい言葉の例など使って、確かめながら話したり聞いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音が同じ言葉や発音が似ていて紛らわしい言葉を使う場面状況を設定し、実際に、相手の様子を確認しながら話したり、話の内容を確認しながら聞いたりすることができるようにさせる。</li> </ul>	<p>相手の様子を確認しながら話したり、話の内容を確認しながら聞いたりしている。(話・聞)[ノート分析]</p>

## 5 本時の学習

(1) ねらい 案内する相手に応じて、大事なことを落とさず、順序を考えながら道案内ができる。

(2) 授業仮説 道案内ゲームを楽しみながら観点に沿った練習を繰り返すことによって、相手に応じて

大事なことを落とさないように道案内できるようになるであろう。(仮説1、2)

### (3) 展開

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法
つかむ	5分	1 前時の想起をする。 2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             大事なことを落とさないように、道案内ゲームをしよう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に確認した「道あん内で大切なこと」をもう一度確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">-----&lt;意識させる観点&gt;-----</p> <p><u>話すとき</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこからどこまでいくのかを、確かめてから話す。</li> <li>・歩いていく順序がわかるように話す。</li> <li>・目印になるものや、曲がる時の方向などを言う。</li> <li>・相手に応じた話し方。</li> </ul> <p><u>聞くとき</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないところ、聞き逃したところは質問する。</li> </ul>	
追求する	33分	3 道案内ゲームをする。 (1) 4人グループ内でペアを変えながら道案内クイズを出し合う。 ・ゲーム(2回) ・モデル発表 ・ゲーム(2回) (2) グループごとの結果発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出題者役の児童は 出発点 到着点 どんな人物に案内するかを、カードによって決め、ほかの児童が正しく到着点にたどり着けるように、道案内をする。解答者役の児童は の人物になったつもりで出題者に質問をする。ゲームの結果や観点のチェックをワークシートに記録させる。</li> <li>・途中、じょうずな道案内ができていた児童を全体で紹介する。</li> <li>・道案内の成功数をグループごとに発表させることによって、ゲームのまとめをする。</li> </ul>	A 年下や年上の相手にふさわしい言葉遣いで、大事なことを落とさずに順序よく道案内している。 B 年下や年上の相手を意識した言葉遣いで、大事なことを落とさず、順序を考えて道案内している。 C 絵地図を活用しながら、正しく案内場所を伝えるようにさせる。 [発表の様子を観察・ワークシートの分析]
まとめる	7分	4 まとめの発表を聞く。 5 次時の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点に沿った道案内ができていた児童の発表を聞き、本時の学習を振り返る。</li> <li>・ゲームの中で起こった聞きまちがいを防ぐための学習をすることを告げ、次時の意欲をもたせる。</li> </ul>	

## 道案内をしよう

じょうずな道案内を練習しよう。

道案内で大切なこと

話すとき

・どこから、どこまで行くかを、

たしかめてから話す。

・歩いていくひゅんじゅが分かるように話す。

・目じるしとなるものや、

曲がるときの方向などを言う。

・相手に応じた話し方。

聞くとき

・分からないところ・聞きのがしたところは、

しつもんしてたしかめる。

